羅針盤

橋本　公二
Koji Hashimoto
愛媛大学先端研究・学術推進機構 学術企画室 特命教授
Visual Dermatology 編集協力者

薬疹，水疱症，そして皮膚科医人生

Visual Dermatology の特集号に，退官された先生方が「私のコレクション」として，興味ある症例を発表されるのを，半ば羨望の眼差しで拝読させていただき，小生には縁がないものと考えていた．その理由は，小生は臨床症例は本質的に主治医あるいは教室に属するものと考え，とくに症例のコレクションを行っていなかったからである．このような考えをもつようになった背景には，小生の研修医時代が少し風変わりだったことが影響しているのかもしれない．小生が大阪大学医学部を卒業し，内科研修を経て，皮膚科に入局したころは，医学部紛争の真っ直中で，大阪大学皮膚科もご多分に漏れず，混乱した状態であった．すなわち，教授，助教授が不在であったのである．症例報告も，主治医が興味をもった場合，自己責任をもって行うべきとの方針であった．これらが相まって，症例報告は主治医を重視するとの考え方をもつようになったのである．

しかしある日，Visual Dermatology 編集委員の塩原哲夫教授より，思いがけぬご提案をいただいた．それは，小生が教授として愛媛大学皮膚科学教室で指導した症例を「橋本コネクション」として発表してはどうかというものであった．もちろん，愛媛大学皮膚科で教授として経験した思い出深い症例も多いし，何よりも主治医と小生の共同作業の成果というべきものである．このような考えから，「橋本コネクション」特集号を引き受けさせていただくこととなった次第である．

本特集号は，3 部構成とした．すなわち，薬疹関連のグループ，水疱症関連のグループ，その他の症例のグループである．

まず，Part. 1 の薬疹であるが，これは愛媛大学に赴任した後，「新しい革袋に新しい酒を」の意気込みで，始めたものである．薬疹のなかでも，薬剤性過敏症症候群（DIHS）はとりわけ思い入れの強いものであり，藤山幹子先生に，総説と代表的な症例の報告をお願いした（p.134，140）．薬剤性過敏症症候群は，アレルギー機序とウイルス再活性化機序の複合した新たな疾患として，広く知られるようになったが，その疾患概念を確立する過程で心がけたことがある．それは，個々の症例は多様性に富んでおり，あまり臨床症状の細部にとらわれるとその本質的な概念を見失うことになってしまう．つまり，「木を見て森を見ず」ということになる．薬剤性過敏症症候群の研究においては，常にその本質的な概念はなにかということを念頭に置いて行ったつもりである．

Part. 2 の水疱症は，天疱瘡に出会ったことが小生が皮膚科医を志すきっかけとなったこともあり，小生にとっては特別な疾患といってよい．培養皮膚移植はまったく治療法のなかった表皮水疱症の患者さんたちに大いに喜んでいただくことができ，臨床医として最大の喜びの一つといってよいものとなった．このような視点から，白方裕司先生に総説および症例の執筆をお願いした（p.154，p.162）．また，その他のグループの症例（Part. 3）は，今振り返ってみると，それぞれ特色のある興味深い症例であったと思う．

以上，「橋本コネクション」はずいぶん個性的なものとなったが，小生と愛媛大学皮膚科の先生方との共同作業の成果として，楽しんでいただければ幸いである．